

平成18年7月の解説（週間天気予報）

【7月の天候状況】

梅雨前線が日本付近に停滞することが多く、月半ばに西日本などで晴れたほかは、下旬の前半まで、ほぼ全国的に雨の日が多くなりました。下旬の後半には梅雨前線の活動が弱まり、北日本の太平洋側の地方を除いて、ほぼ全国的に晴れの日が多くなりました。南西諸島では月を通して太平洋高気圧に覆われることが多く晴れの日が続きました。

月を通しての日照時間は、ほぼ全国的に平年より少なくなりましたが、南西諸島では平年並でした。降水量は東日本・西日本では平年より多く、北日本と南西諸島では平年並で、気温はほぼ全国的に平年並みとなりました。

【7月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は全国平均では例年（注）より2ポイント高い66%でした。例年と比べて北陸地方では7ポイント、九州南部地方では5ポイントそれぞれ低くなりましたが、北海道、東海、沖縄地方では5から6ポイント高くなりました。最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は全国平均では例年より0.2大きい2.8で、ほぼ全国的に例年より大きく、特に東海、四国、九州北部地方では0.5から0.8大きくなりました。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差は全国平均では例年と同じ1.8で、九州北部地方で例年より0.3大きくなりましたが、北陸地方では0.3、東北地方では0.4それぞれ例年より小さくなりました。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【7月の週間天気予報から】

7月5日には梅雨前線上の低気圧が本州の日本海側を東に進み、それまで南の海上に停滞していた梅雨前線が関東地方を北上し、これに伴い関東地方でも日雨量で20から50ミリ程度のまとまった雨が降りました（図1、2）。

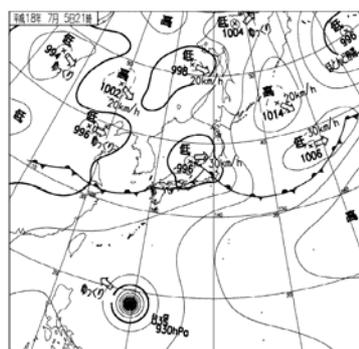


図1 2006年7月5日21時の
実況地上天気図

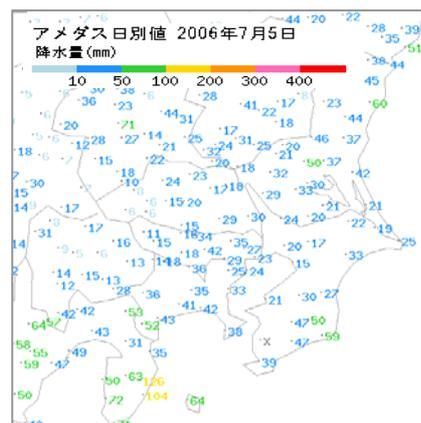


図1 2006年7月5日の降水量

週間天気予報ではこの日の東京地方の天気を「くもり」と予報していました。これは、この低気圧の発生を的確に予想していなかったためです。図3は週間天気予報で使用した7月5日の気圧配置の予想で



図3 週間予報で使用した7月5日21時の気圧配置の予想
ハッチがかかった部分は雨域を示す。

す。東シナ海から日本の東海上にかけて梅雨前線に相当する雨域が表現されています。4日前、3日前の予想では前線の日本海への北上は予想していますが、低気圧の発生までははっきりと予想していません(図 3-a,b)。2日前になると日本海西部に低気圧が予想されていますが、予想位置が実際の低気圧よりも遅れており、関東地方から見ると、梅雨前線がまだかなり離れたところに留まっています(図 3-c)。

梅雨前線上に現れるこのような規模の小さな低気圧の発生や移動などの予想は、規模の大きな低気圧に比べて精度が十分でないこともあり、週間天気予報の期間後半の予報を難しくする現象の1つです。

【9月の週間天気予報の利用にあたって】

秋になると梅雨の頃と同様に、日本付近で前線が停滞することがあります。この前線を秋雨前線と呼ぶこともあります。この前線の位置や活動の程度によって天気が大きく変わります。

平成 16 (2004) 年の 9 月は前線が日本の南岸に停滞することが多く(図 1)、西日本を中心に曇りや雨の天気が多くなりました(表)。一方、平成 15 (2003) 年の 9 月は月の前半は前線が朝鮮半島から北日本にかけて停滞することが多く、月の後半には日本の南海上まで南下して活動が弱まったため(図 2)、西日本では晴れの日が多くなりました(表)。

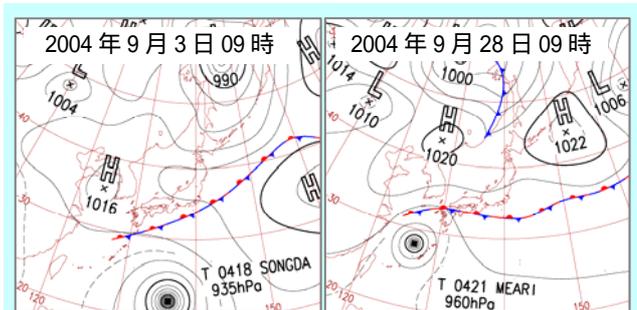


図 1 2004年9月の地上天気図

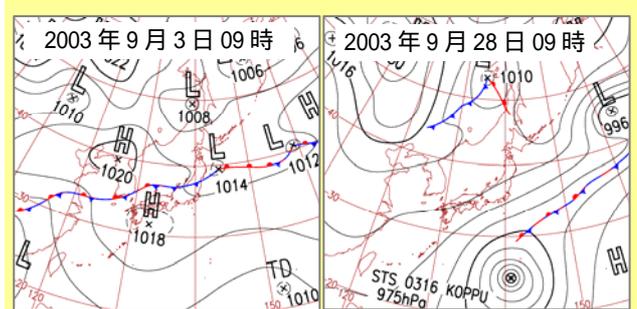


図 2 2003年9月の地上天気図

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
2004年	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁
2003年	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀

表 9月の日中の天気(福岡)

2004年のように、前線が日本付近に停滞しているところに台風が接近すると、台風の東側を回って南の暖かく湿った空気が流れ込むため大気の状態が不安定となって、大雨が発生しやすくなります。

夏から秋にかけて台風の影響を受けるおそれがある場合には、週間天気予報でも、概況の中で台風の動向について触れることがあります。週間天気予報では、単に曇りや雨といった日々の予報にだけ注目するのではなく、概況にも目を通すようにしてください。台風の動向によって予報が大きく変わったり、大雨になるようなこともありますので、新しい予報で確認するとともに、台風情報などにも注意して行動するように心がけてください。